

ミクロネシアの旗

第8部 分裂への序章

2006.6.24

札幌たのしい授業・研究サークル用レポート

仮説実験授業研究会・北海道・丸山秀一

[C]Maruyama Shuichi



image by Zeljko Heimer

ミクロネシアは、「将来の独立」を約束された信託統治領でしたが、その実態は軍事基地と核実験場でしかありませんでした。米ソは核実験の部分的停止に合意しましたが、中国とフランスは、大気圏内核実験も続けました。

植民地が次々と独立してゆく中、米国もミクロネシアの信託統治の終了を考えざるを得なくなってきました。そこで、ミクロネ

シアを恒久的に支配下に置くために、援助を急増させて、議会も作らせた。しかし、その議会が、ミクロネシアの旗としてはじめて採択した旗は、彼らの独立の意図を表しているかのようなのでした。

【問題】

1968年7月、米英ソは、「核保有国を米ソ英仏中に限定して拡散を防止し、核軍縮交渉をすすめて、原子力の平和利用と各国の相互協力をうながす国際条約」である核拡散防止条約（= NPT）に調印しました。

では、大気圏内核実験を続けていたフランス、中国と秘密裏に核兵器を保有していたイスラエル、核開発を進めていたインドは、この NPT に調印したのでしょうか。

予想 フランス（ ） 中国（ ）
イスラエル（ ） インド（ ）

- ア 調印した
- イ 調印しなかった

日本はどうだったのでしょうか。

核拡散防止条約

この条約は、「現在の核保有国はそのまま核保有を認めて、核軍縮へ努力。新たな核保有国は認めない。非核保有国は平和利用を推進」というもので、それらは「国際原子力機関 (=IAEA) の査察によって維持される」ものでした。NPT は国連総会を経て、1970年 3 月に 62 か国の調印で発効しました。しかし、フランスと中国は、調印を拒否し、イスラエルとインドも調印しませんでした。また、日本も IAEA の査察により原子力発電開発への影響が出ることを懸念して、調印しなかったのです。

【問題】

NPT の調印で、米ソは核実験をしなくなったと思いますか。

予想

- ア 実験を停止した
- イ 回数を減らせただけ
- ウ 変わらなかった



Emma Cairns from Edinburgh

NPT と核実験

米英ソが NPT に調印した翌月、フランスは初の水爆実験を大気圏内で行いました。そして、実験場となった環礁は「今後 6 年間、立ち入り不可能」というほど汚染されました。

また米国の地下核実験では、放射能漏れにより、職員 86 名が被爆、死の灰はカナダにまで到達していました。地下核実験だからといって安全ではないのです。

調印の翌月、ソ連はチヨコスロバキアの民主化運動に軍事介入しました。10 月、新宿では、国際反戦デーのデモで 1 万人の学生と群衆が暴徒となって無秩序な破壊を行ったため、警視庁は騒乱罪を適用して 00 人を逮捕しました。12 月には、中国が水爆実験を行いました。

	米国の核実験回数	ソ連の核実験回数
NPT 調印一年前	29	17
NPT 調印の年	29	13
NPT 調印の翌年	29	16

そして、米ソの核実験も NPT 調印と関係なく続けられました。



新宿騒乱で反戦運動は大衆の支持を失うことになった。

【問題】

1960年以降、国連信託統治理事会では、日米に対し「戦時賠償問題の早期解決」決議が毎年採択されていました。1968年には、ミクロネシア議会も「日本の戦時賠償を促進させることを国連に求める決議」を採択しました。

では、日米はどうしたと思いますか。

予想

- ア 戦時賠償に応じた
- イ 別の形で資金を提供した
- ウ なにもしなかった



プラハに侵攻したソ連の戦車

チェコスロバキアのドゥブチェク政権は、「プラハの春」とよばれる経済改革と民主化をおしすすめた。しかし、ソ連の指導者ブレジネフはこの改革に脅威を感じ、1968年8月、ワルシャワ条約軍をチェコスロバキアに侵攻させて、ドゥブチェク政権をたおした。この事件後、東欧諸国に対するソ連の統制は強化された。

ミクロネシア協定

1969年4月、日米は「住民の長年にわたる悲しみと今後の福祉を考へて、米国は500万ドルの現金、日本は同額(18億円)の物資とサービスを米国の使用に供する」というミクロネシア協定を締結しました。これは日本が「ミクロネシアは委任統治として我が国の構成部分として統治した。従ってそこの住民に対して国際法上なんら戦時損害賠償に応じるべき責任はない。18億円はあくまでも住民の福祉のために自発的に行われるもので、損害賠償の性格を持つものではないし、見舞金でもない」と説明したとおりのもので、「この協定により、ミクロネシアの日本に対する財産、請求権のすべての問題は、完全かつ最終的に解決されたことに日米両国は合意する」となっていたのです。つまり、「加害者」側が一方的に、「賠償」を決めたのが、この協定です。

米国は、日米両国が出した1000万ドルを「日米戦争での損害補償」にあて、さらに米占領後の軍政下での損害補償のための基金2000万ドルを計上しました。これらの基金は、インディアンに対する賠償と同様に、「ミクロネシア請求委員会」が作って、住民からの賠償請求受け付けを開始しました。これに対して日本は、あくまでも「賠償ではない」という立場でした。

「ソロモン報告書」にあった通り、米国は日本資本でのミクロネシア開発を考えていましたが、信託統治条約では機会均等となっていたため、ソ連や中国を排除して、日本資本だけ入れるというわけにはいきませんでした。しかし、この協定により、1974年4月、ソ連と中国を除いた形で、外国、つまり日本の、ミクロネシアへの直接投資が許可されました。そして、日本から、遺骨収集団、観光客、漁業関係者などが押し寄せていったのです。

【問題】

戦時賠償問題に解決の道をつけた米国は、ミクロネシアに対して、「米国との持続的パートナーシップをつくるため話し合うこと」を提案しました。

ミクロネシアの「将来の政治的地位委員会」は「即時独立か、将来の独立のための自由連合か、強大国との統合」との3案を出していました。では、ミクロネシア議会が採択したのは、どの案だったでしょうか。

予想

- ア 独立
- イ 自由連合
- ウ 併合



ミクロネシア信託統治領高等弁務官の旗

by Joshua Holman

自由連合

ミクロネシア議会在「最も望ましい形」として選んだのは「自由意志による国家連合」である「独立へのステップとしての暫定的な自由連合」でした。それは以下の「自治4原則」に基づいたものでした。

ミクロネシアの主権は、ミクロネシア人民と、ミクロネシア人民により正当に設立された政府にある。

ミクロネシア人民は自決権を有し、独立またはほかの国家、国際組織との自由連合の元で自治を選択できる。

ミクロネシア人民は自らの憲法を制定し、修正する権利を持つ。

自由連合は、当事国が一方的に終了できる。

そして、ミクロネシア議会は「米大統領と議会に対して、ミクロネシアの政治的将来を真剣に検討することを要求する決議」を採択し、米国とミクロネシアは政治地位交渉を始めました。

【問題】

それでは、米国はミクロネシアの自由連合案を認めたのでしょうか。米国がミクロネシアに求めた政治的地位はどのようなものだったと思いますか。

予想

- ア ミクロネシア案とほぼ同じ自由連合
- イ 米国との併合
- ウ 米領で内政自治権
- エ そのほか

米領ミクロネシア

ミクロネシアが自由連合の相手として米国を想定しているのは、当然の事実でした。米国との政治地位交渉が始まった同じ月、ミクロネシアでは小学校までの義務教育が開始されました。学校では英語と現地語が使われましたが、教科書は英語のものしか有りませんでした。米国の同化政策は進んでおり、ミクロネシアには米国依存を断ち切る選択肢はなかったのです。

米国は、それを歓迎しながらも、「人民に土地管理権があると一方的に自由連合を終了する権利は、認められない」としました。米国が望んだのは、属領(=テリトリー)としての米領ミクロネシアであり、「連邦には編入されず、米国が土地収容権を持ち、内政においても米国が最終決定権を持つ」ことだったので。それはグアムやまだ米占領時の沖縄のようなものでした。

しかし、この米国提案にミクロネシア側は強く反発しました。信託統治の最高責任者である米国内務長官も「米国は、ミクロネシアの土地に収容権を持っていない。ミクロネシアの土地は、買いか借りるかしかない」としましたが、キッシンジャー大統領補佐官は「あそこにはたった9万人しかいないじゃないか。誰が構うものか」と述べたと言います。

【問題】

米国の「属領」提案は、ミクロネシアから拒否されたため、1970年の第二回交渉で、米国は「義務を引き受ける代わりに、ある種の権利と利益を与えられる永続的關係」としてコモンウェルス(=自治領)を提案しました。

では、ミクロネシア側は、賛成したでしょうか。

予想

ア 拒否した

イ 賛成した

ウ そのほか



プエルトリコ自治領(コモンウェルス)の旗

(c) Microsoft Corporation. All Rights Reserved.

プエルトリコは 1898 年の米西戦争の結果、米領となり、1952 年米国より自治権を獲得して自由連合州となった。

コモンウェルス

すでに米国は 1952 年、プエルトリコをコモンウェルスとしていました。プエルトリコは、米領から自治権を獲得したものでした。しかし、ミクロネシアは米領ではなく、「将来の独立」が約束されている信託統治地域だったのです。

米国の提案に対してミクロネシア側は、「米国は信託統治領の名称をコモンウェルスにしようとしている。だが我々の将来は米国に制御されることになる。クワジェレンは、米国のものであり続け、イーバイ島がミクロネシアのものとなるだろう。ミクロネシアは、インディアンと同じくらい永久的でアメリカ的存在になる」と反発し、交渉は決裂しました。

【問題】

しかし、ミクロネシアの 6 つの地区のうちひとつは、「自治 4 原則にこだわらずに、コモンウェルスを目指す」として、米国に対して「個別にコモンウェルスの会議を開くこと」を要求しました。それは、どの地区だと思えますか。

予想

- ア マーシャル諸島地区（ビキニなど核実験場）
- イ マリアナ諸島地区（サイパンなど軍事基地）
- ウ パラオ地区（かつての南洋庁）
- エ そのほか

「民主主義」

「自治 4 原則にこだわらずに、コモンウェルスを目指す」としたのは、マリアナ地区でした。マリアナ地区議会は「米国に対してコモンウェルスについての会合を開くことを求める決議」と「北マリアナ諸島住民にコモンウェルス案を提案、支持を促進する決議」を採択しました。

どうしてマリアナ地区だけは米国提案に賛成だったのでしょうか。マリアナ諸島のもともとの住民は、他のミクロネシアのカナカとは違うチャモロでした。またスペイン時代から混血が進み、ミクロネシアの伝統的文化が消滅していました。それに、すぐ近くのグアムで、祖先に同じチャモロを持つ人たちが、米領として豊かな生活を送っているのを見ていたのです。そして、それを利用したのが、米国でした。

米国は、信託統治の最初から、マリアナ地区を軍用地として確保し、海軍が分割統治してきました。そして米国は、軍事上の理由から、マリアナ地区、特にサイパンを特別扱いしてきました。サイパンには、他の地区よりも量、質、共に良い学校、病院、道路、仕事があったのです。

ニクソン・ドクトリンにより、米国は、ベトナムやアジア大陸からの撤退を決めました。また、1971 年、沖縄返還協定に調印した米国は、沖縄の米軍基地と反基地の運動が高まっていたフィリピンの軍事基地は、「将来にわたって使用できるとは限らない」と判断していました。そこで、マリアナを永久的に米主権下に置いておく必要がさらに高まったのです。

しかし、国連は「植民地の国民的統一、領土保全の部分的、全体的破壊をめざすいかなる企図も、国連憲章の目的、原則と調和

しない」と決議していました。そこで米国は「ソロモン報告書」に基づいて、まずマリアナで「住民の自発的な要求に米国が応じた」という「民主主義的」な形を取ることに成功したのです。

このマリアナ地区の分離の動きに対して、他の地区からは抗議が出ました。それに対して、マリアナ地区議会は「必要ならば武力に訴えてもミクロネシアから分離して米国に加わる」との決議を採択したのです。

【問題】

1970年12月のネバダでの地下核実験は、86名の被爆者と2名の死者を出し、死の灰はカナダにまで降り注ぎ、「地下核実験も安全ではない」ことを明らかにしました。

しかし、米国は、アラスカのアムチトカ島での過去最大規模の地下核実験の予定を発表しました。アムチトカ島では、過去二回の核実験時から、大規模な地震や津波の恐れが指摘されており、今回の実験で過去の実験で地下にたまった多量の死の灰などが漏れ出す危険性もありました。そこでノーベル賞科学者のポーリングらは、連邦地方裁判所に実験の中止を求めて訴えました。

では、裁判所の判決はどうだったと思いますか。

予想

- ア 実験中止を命令
- イ 実験延期を命令
- ウ 訴えを却下



史上最大規模の地下核実験

ポーリングらの訴えに対して、米両院は、「アムチトカ島での核実験を5月まで延期する決議」を採択し、カナダのバンクーバーでは、高校生1万人が授業をボイコットして、

米領事館前で核実験反対デモを行いました。グリーン・ピースは、最初の反核行動として二隻の船を派遣しました（このとき放棄された鯨の骨を見たことが捕鯨反対運動へ発展）。

しかし、10月末、連邦地裁は訴えを却下し、米原子力委員会は、史上最大規模(5Mt)の地下水爆実験を11月に強行しました。実験は、マグニチュード7.5の地震を発生させましたが、原子力委員会は「放射能の漏出や大規模な地震や津波の心配はない」と発表しました。しかし、実験地点の地表には大きな割れ目が発生していました。そして、理由は言われぬまま、アムチトカ島は核実験場として使うことが放棄されました。

フランスも、国際的な抗議にも関わらず大気圏内核実験を続けていました。6月の核実験では、多量の死の灰が周辺の島を汚染していました。ペルーは、核実験に抗議して、フランスと国交を断絶しました。同様に大気圏内核実験を続けていた中国は、この年、国連に加盟しました。

この年には、天皇皇后が初めて原爆慰霊碑に参拝しました。原

水禁国際会議には、初めてミクロネシア人が参加し、調査団派遣が決議されました。しかし、派遣された調査団は、高等弁務官により「観光ビザでの調査は認められない。直ちに退去せよ」と被爆地域への入域を禁止されました。また原爆死没者慰霊式には、首相として初めて佐藤栄作が参加し「我が国は、唯一の被爆国として、戦争の絶滅と平和確立を国是としてきた」と述べました。

米国でのベトナム反戦集会は20万が集まる規模のものとなり、「ニューヨーク・タイムズ」は、「米国は極東地域の経済と軍事を支配するために積極的計画的にベトナムに介入した」とする極秘文書を暴露しました。

9月、米ソは「ミスによる核戦争を防止するため」に、「偶発的核戦争防止協定」に合意しましたが、これは、なんら「核戦争の抑止」につながるものではありませんでした。

【問題】

このような世界情勢の中、1年ぶりに米国とミクロネシアは政治地位交渉を開き、米国は初めて条件付きながら、ミクロネシアの「自由連合構想」に基本的に同意しました。

では、その「条件」とはなんだったのでしょうか。

予想

- ア 期限がついている
- イ 軍事基地化
- ウ 米国に最終決定権がある
- エ 援助金なし
- オ そのほか

発表しないこと

米国の条件は「将来も米国の軍事利用が保証されていること」でしたが、米国の外部への発表では、それは隠されており、「米国は自治権付与に同意」とだけ発表されていました。

しかし実際に米国が要求したのは、次のようなものでした。

- ・ サイパンの港の拡張と軍事施設の建設。
- ・ サイパンの空港の整備と軍港化。
- ・ テニアン島の 2/3 を占有し、軍事基地化。
- ・ パラオに原潜基地新設。
- ・ パラオに陸軍演習場新設。
- ・ クワジェレンのミサイル基地の継続使用。
- ・ 現在の軍事通信施設の継続使用。

これらの条件は沖縄返還と非核三原則により、米軍の行動が制限されるようになるため、ミクロネシアの基地強化をねらったものでした。

「非核三原則」とは、佐藤首相が 1968 年に「核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず」という「被爆国日本の国是」として言明したもので、1971 年に国会で採択されたものです。また、国会では「返還後の沖縄でも、非核三原則を遵守すると共に、適切な手段によって沖縄に核が存在しないこと、返還後も持ち込ませないことを明確にする措置を執るべき」と決議していました。

しかし、米国との間には「有事の際の核持ち込み」の秘密協定があり、核兵器を搭載した艦船が、日本に寄る前にどこかに核兵器を降ろしてくることはあり得ず、「核持ち込みは日常化」することになるのです。それでも、当時の米国は沖縄米軍基地の撤退を

考えていたことだけは確かです。

そして、1972年5月、沖縄は大東諸島と共に、日本に返還されました。返還協定は、「核抜き、軍事基地は本土並み」だったのですが、VXガスなどの化学兵器が沖縄から取り除かれただけで、90近い米軍基地は、(おそらく核と一緒に)そのまま残されたのでした。

1974年、佐藤栄作は非核三原則などの政策によりノーベル平和賞を受賞しました。

【問題】

米国の「米国の軍事利用保証」という条件について、ミクロネシア側はどんな反応をしたのでしょうか。

予想

- ア 賛成
- イ 反対
- ウ 賛成と反対で分裂

佐藤栄作

佐藤栄作は、池田勇人の後をうけて8年近くも首相をつとめた。非核三原則などの政策を評価されて、1974年ノーベル平和賞を受賞した。

(c) The Nobel Foundation



Microsoft(R) Encarta(R) 2006. (C) 1993-2005 Microsoft Corporation. All rights reserved.

「世界の平和と安全に責任がある」

米国の条件は、「ミクロネシア 6 地区のうち、3 地区を軍事利用する」というもので、ミクロネシアを二分するものでした。ミクロネシアの半分は、米軍基地が置かれる代わりに援助金があたるのです。

続く交渉で、米国はエニウエトク環礁の返還を約束し、「自主憲法を制定し修正する権利」「自由連合を一方向的に終了できる権利」を認め、「軍事外交のみ米国に権限」があるとしました。

それに対して、マリアナ諸島地区は「米国は、我々が評価する価値観と我々が目標とする経済的繁栄をもたらせた。米国以前の独裁国家は我々の人権を認めなかった。米国との政治的つながりは自由を保障するものだ」との主張を続けましたが、ミクロネシア側は基本的な米国提案に賛成しながらも、主権国家として「外国や防衛に対しての発言権」と「軍事施設に使用期限を設けること」を米国に求めました。

しかし、それは米国が許さないことでした。米国は「それは独立についての話で自由連合の話ではない。ここに独立の話を出すことは非現実的だ。米国は太平洋と世界の平和と安全に責任がある。軍事施設利用期限は断じて受け入れられない」として交渉は決裂しました。

そして、独立の気運が高まったパラオで初めての反米デモがありました。出勤した警察官も「私もデモ参加者の人数に入れて良い」と述べたそうです。

その年のミクロネシア議会選挙では、地区ごとに独立派が当選したり、落選したりしていました。パラオでは、独立派の全員が再選を果たし、「軍事基地を認めれば被害をもたらす恐れがある。

米軍による土地の使用に絶対に反対」と宣言しました。そして、国連の批判にも関わらず、マリアナ地区は、自由連合・独立要求から離脱し、米国との単独交渉を開始しました。

【問題】

核実験が続けられる中の 1972 年 5 月、米ソは「戦略兵器制限協定」(= SALT) に調印しました。これは「弾道核ミサイルなどの数量削減」を目的としたものでしたが、この結果、米ソの核兵器は減ったと思いますか。

予想

- ア 半減した
- イ あまり変わらなかった
- ウ 却って増えた

核実験の回数は減ったでしょうか。



SALT の調印

1972 年 5 月 26 日、SALT(戦略兵器制限交渉)の調印をおえ、握手するアメリカ大統領ニクソンとソ連共産党書記長ブレジネフ。デタント(緊張緩和)時代の象徴として

評価された。Microsoft(R) Encarta(R) 2006. (C) 1993-2005

Microsoft Corporation. All rights reserved.

Strategic Arms Limitation Treaty

戦略兵器制限協定により、米ソは次のように核ミサイルなどの数を5年間の期限付き（ABMは無期限）で制限しました。

SALT	米国	ソ連
ABM（弾道弾迎撃ミサイル）	200	200
ICBM（大陸弾道ミサイル）	1045	1618
SLBM（潜水艦発射弾道ミサイル）	710	950
SLBM 発射可能潜水艦	44	62

しかし、これにより核ミサイルの数が減ることはありませんでした。なぜならこの制限は当時の保有数（建設計画含む）そのままだったからです。

しかも、MIRV（＝個別誘導複数核弾頭）という「核弾頭の複数化」には一切触れていなかったため、米ソはミサイルの数を増やすことなく、弾頭を複数化することによって、実質的に核ミサイルの数を増やしていったのです。

また迎撃ミサイルの数が制限されたのも、「迎撃ミサイルが存在すれば、先制核攻撃を受けても報復核攻撃が出来るから核戦争抑止となる」という「相互確証破壊」(=MAD)の概念を否定することになる」ということからのものでした。

	米国の核実験回数	ソ連の核実験回数
SALT 調印一年前	15	19
SALT 調印の年	15	22
SALT 調印の翌年	12	14

周恩来首相は、「SALTは軍拡競争を止めることにはならず、軍拡の新段階の始まり」と述べ、事実、核実験も止むことはありませんでした。

SALT 調印の翌月、「Only One Earth」をテーマに、第一回国連人間環境会議が開催され、人間環境宣言が採択されました。それは差別や植民地主義への批難と核兵器の廃絶を訴えたものでした。

【問題】

1972年11月、ミクロネシアで19歳のレコジ君が白血病のため死亡しました。彼の病気は、18年前のビキニ水爆実験で被爆したのが原因でした。

では、彼の死は米国でどのように報道されたと思いますか。

予想

- ア ほとんど報道されなかった
- イ 「核の恐怖」として大きく報道された
- ウ 「核の安全性」として大きく報道された
- エ そのほか



ビキニ水爆実験

Test: Bravo
Time: 06:45:00.0
1 March 1954 (local)
Location: Artificial island on reef 2950 ft off Nam ("Charlie") Island, Bikini Atoll

水爆の犠牲者第一号

米国の報道各社はレコジの死を「水爆の犠牲者第一号」として報道しました。それは米原子力委員会の発表に基づいたものでした。米原子力委員会は、レコジの死を「被爆が原因」とするまで、これまでビキニ水爆実験で被爆した人の死を「被爆が原因」とは、誰一人として認めてこなかったのです。1954年9月、「原水爆による被害者は、私を最後にして欲しい」として亡くなった久保山愛吉の死も、米原子力委員会は「被爆が原因」とは認めていないのです。

報道された「被爆して18年後に初めての死者」という「事実」は、「核爆弾が投下されたら、机の下に隠れる」とするそれまでの米国の国民に対するプロパガンダと同じものでした。

レコジの死の翌年、WHOは、「クワジェレンなどのマーシャル



諸島で白内障が多発している。これは米軍の超短波放射線の過剰な照射が原因と考えられる」と発表しました。つまり、ミサイルを追尾するためのレーダーによるマイクロ波が原因とされたのです。

また、ミクロネシア議会には、「ビキニ水爆事故の医学的責任」の報告書が提出され、それには

はっきりと「責任は米国にある」と記されていました。米原子力委員会によるロンゲラップなどでの定期検診でも、甲状腺の病気が多発しており(米国平均の 倍),死産と流産も多いことが報告されていました。1974年までに157人の被爆者のうち、41人が死亡していたのです。

そして米原子力委員会は、被爆住民に2万ドルの追加補償を「これで米原子力委員会及び米国政府に対する賠償要求を放棄すること」条件に出しました。

【問題】

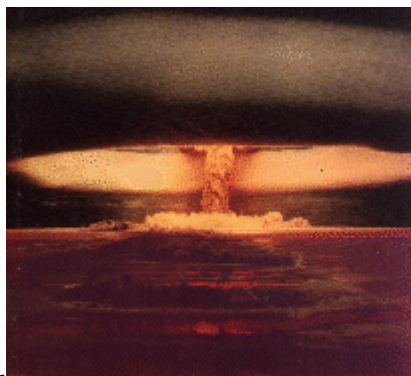
1972年には、フランスは太平洋で3回の大気圏内核実験を行いました。1973年、ニュージーランドとオーストラリアは、国際司法裁判所に「フランスの核実験停止」を求めて提訴しました。

では、国際司法裁判所の判決はどうだったでしょうか。

予想

- ア 実験停止を命令
- イ 地下核実験への変更を命令
- ウ 訴えを却下
- エ そのほか

モルロア環礁での
フランス核実験



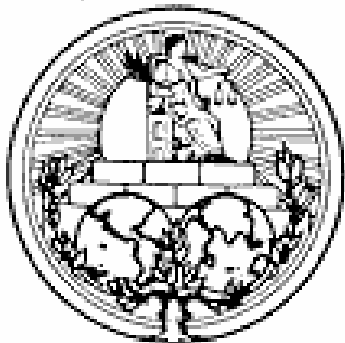
国際司法裁判所の判決

提訴に対してフランスは「核実験をやめるつもりはない」との声明を出しました。ニュージーランドは、抗議のために、実験場に軍艦を派遣、オーストラリアもタンカーを派遣しました。グリーン・ピースも船を派遣し、ペルーは学者を乗せた漁船を派遣することを決定しました。タヒチでは、住民 5000 人による、実験反対デモが行われました。「南太平洋のサミット」と言える南太平洋フォーラムも「フランスの核実験への抗議決議」を採択しました。

そして、国際司法裁判所の判決は 9 対 6 で、フランスに対する「南太平洋の大気圏内核実験停止の暫定措置を命令」でした。では、フランスはこの判決に従ったのでしょうか。判決の一か月後、フランスはモルロア環礁上空で核実験を強行し、年末までに 5 回の大気圏内核実験を行ったのでした。

判決の 2 日後には、中国が水爆実験を「必要かつ限定された核実験は、核兵器廃棄を究極の目的とした自国防衛と、超大国による核独占を破ることが目的である」として行いました。

日本は抗議文を出しましたが、を中国は「日本が、唯一の被爆国であることは理解できるが、その原爆は誰が落としたのか。中国の核兵器が防御的であることは解っているはずなのに、なぜ抗議するのか理解に苦しむ」と、その受け取りを



International Court of Justice

拒否しました。

判決の前日、米ソは「核戦争防止協定」に調印しましたが、それは「核戦争が発生するような状況を作らないように努力する」という精神面でのもの
でした。

それでも、この年、
米軍のベトナム撤退が
終了し、ニクソンは「ベ
トナム戦争終結宣言」
を出しました。



フランスの核実験

【問題】

マリアナ地区は、1972 年末より単独で米国と政治地位交渉を始めました。交渉で米国は、サイパン飛行場とテニアン全島の軍事基地計画を出しました。

では、マリアナ地区の住民は、それを受け入れたのでしょうか。

予想

- ア 積極的に受け入れた
- イ やむを得ず受け入れた
- ウ 反対した

親米感情と基地問題

マリアナ地区は、「米軍基地による収入」をあてにしていました。ミクロネシア連邦の一員となれば、この収入がミクロネシア全体に分配されてしまうのです。そして、米国の提案は、米国がマリアナに求めているものと、その「負の側面」を明らかにしました。

立ち退きを求められたテニアン島では、基地化反対デモが起きました。そこで米国は「テニアン島の 1/3 は住民が所有することを認める」と譲歩しました。しかし、テニアン島議会は納得せず、「基地化に対する住民投票の実施」を決議しました。

それに対して、信託統治領政府のマリアナ諸島行政府長は、拒否権を行使しました。そこで、住民は有権者の半数以上の署名を集めて請願書を提出しました。これに対して、米国は一部の村の立ち退きは取り下げたものの、基地計画の縮小だけは断固拒否したのです。そして反対する住民を威嚇すべく、米軍は大規模な上陸演習をテニアン島で行い、反対運動を沈静化させていきました。

これらの反対運動も「軍事基地化反対」というだけで、「反米」



テニアン島
直線状に見えるのは軍の滑走路跡。

ではありません。ミクロネシアの将来を検討する「パラオ国際会議」では、「経済問題と教育問題は密接な関係がある」と指摘されていました。「米国式教育では米国の経済以外は考えられなくなる」というのです。

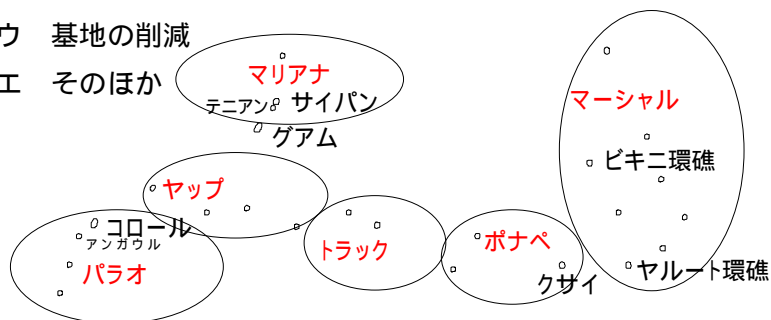
【問題】

米国とミクロネシアの政治地位交渉は「自由連合」を「独立へのステップ」とするミクロネシアと「独立ではない」とする米国とで決裂したまま1年以上が経過していました。

1973年11月、米国はある提案により、ミクロネシア側を交渉のテーブルに着かせることに成功しました。では、どんな提案をしたのだと思いますか。

予想

- ア 経済援助
- イ 土地の返還
- ウ 基地の削減
- エ そのほか



ミクロネシア信託統治の6地区
(日本統治時代と同じ分け方。グアムは米領)

分断工作

マリアナ地区が離脱して、残ったミクロネシア人が要求していたのは、族長の伝統的権威の回復でした。「公有地のすべてを族長に返還するまで政体交渉に応じない」とする地区もあったのです。公有地はミクロネシア全体の60%を占めていました。そこで米国は「公有地を将来ミクロネシア政府に返還する用意がある」として政治地位交渉を復活させたのでした。

そして「公有地返還」の提案に、ミクロネシア側は軍事基地問題にも妥協し、「引き替えにどれだけ多くの財政援助をもらえるか」に関心が移っていきました。しかし、「基地と引き替えの援助」では、ミクロネシアを必然的に「基地が置かれる地区(マリアナ、パラオ、マーシャル)とそうでない地区(ヤップ、ポナペ、トラック)」とに分裂させていきました。

そして、1974年5月、マリアナ地区に続き、かねてより「地区税収の半分を地区に還元する法律制定が連邦参加の最低条件」と宣言していたマーシャル地区がミクロネシア議会と連邦憲法制定会議との離脱を表明しました。

さらにパラオ地区も「首都をパラオに置かないのであれば、連邦脱退ありうる」と声明しました。ミクロネシア連邦の首都は、地理的条件からポナペに置くことがほぼ決まっていたから、これは事実上の離脱宣言でした。

また、パラオには、米国より「パラオに石油備蓄基地と原発を作る。日本は、中東からの原油をそこで精製し、米国はそこから防衛拠点に石油を安定供給できる」という「スーパー・ポート計画」が提示されていました。パラオは、それで経済的にも自立できる見込みもりがあったのです。

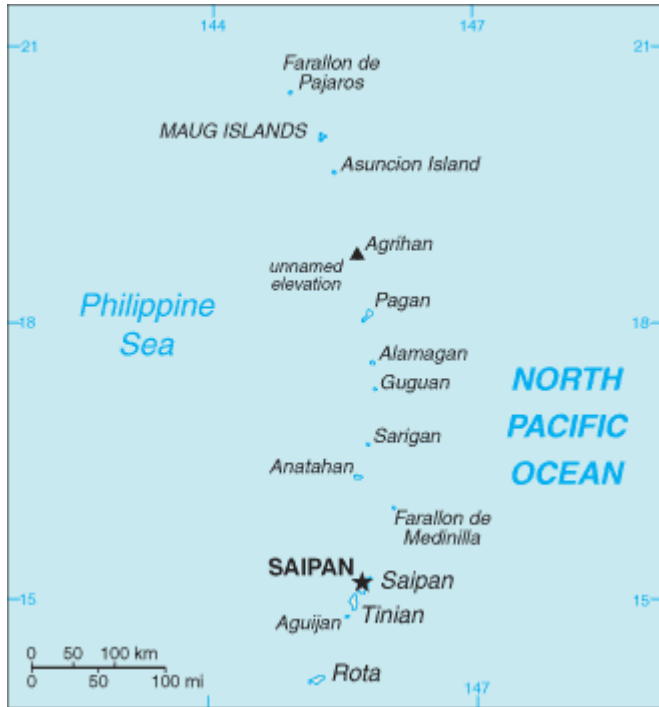
【問題】

1975年2月,マリアナ地区は北マリアナ諸島コモンウェルス盟約に調印,住民投票で79%の賛成を得て,米領コモンウェルスとなりました。「将来は独立で,分割は認められない」はずだった信託統治領は,ここに最初の「独立ではなく,分割」となったのです。では,マリアナの基地問題は怎么样了のでしょうか。

予想

- ア 基地は削減された
- イ 基地はそのままであった
- ウ そのほか

米領北マリアナ諸島コモンウェルス



北マリアナ諸島コモンウェルス盟約

「北マリアナ」と「北」がついているのは、マリアナ諸島のうち南端のグアムが含まれていないことを示しています。この盟約は次のようなもので、財政援助と引き替えに、基地をそのまま認められたものでした。

- ・ 北マリアナは、米国主権の元で自治政府を樹立し、住民は米国民となる。
- ・ 外交と防衛に関するすべての権限は米国にある。
- ・ 北マリアナは、米国の計画する軍事施設の建設と利用を例外なく認める。
- ・ 北マリアナは米国が防衛責任を果たすため、サイパン空港を供与する。また以下を 100 年間、年額 1 エーカー (=0.4ha) あたり 1000 ドルで貸与する。

サイパンの港 72ha

テニアン島の 2/3 7200ha

ファラリオン・デ・メディニラ島の全島 83ha

- ・ 米国は 7 年間、毎年 1400 万ドルの財政援助を行う。

【問題】

ミクロネシアから最初に離脱することを考えたマリアナ諸島議会は、1972 年、独自の旗を制定しました。では、その旗は、次のどの旗に似ていたでしょうか。

予想

- ア ミクロネシアの旗
- イ グアムの旗
- ウ 米国旗（プエルトリコの旗）
- エ 日の丸
- オ スペインの旗



スペイン時代の政府旗・軍旗
by Luis Miguel Arias



米領グアムの旗
by Zeljko Heimer



ミクロネシアの旗
by Zeljko Heimer



プエルトリコの旗
by Victor Quinones

マリアナ諸島の旗

マリアナ諸島は、グアムのようになりたくて、米国のコモンウェルスを目指していましたが、その旗もグアムや米国旗に似ていたのでしょうか。そうではありません。マリアナ諸島の旗は、ミクロネシアの旗にそっくりでした。一つ星は、マリアナ諸島地域を表していると共に、「分離独立の一つ星」です。そして、古代チャモロ文化を象徴する「ラッテ・ストーン」が描かれていました。この旗からは、「民族の誇りを持ちながら、ミクロネシアの一員として分離独立する」という感じがします。

では、彼らの願いは達成されたのでしょうか。

実質的に「最後の植民地」である信託統治領は、1960年に国連の「植民地独立付与宣言」の採択で、次々と独立していきました。

そして、1975年9月、すでに1973年に自治政府を樹立していたパプア・ニューギニア（オーストラリアの信託統治領）は、完全に独立を達成しました。こうして、未独立の信託統治領は、ミクロネシアだけになったのです。（つづく）



マリアナ諸島の旗 Zeljko Heimer

1945
1946
1947
1948
1949
1950
1951
1952
1953
1954
1955
1956
1957
1958
1959
1960
1961
1962
1963
1964
1965
1966
1967
1968
1969
1970
1971
1972
1973
1974
1975

信託統治領の独立

名称は現在の国名。 中の数字は独立の月。
()の中は、統治国。

1960年に「植民地独立付与宣言」

ガーナ (英)

カメルーン (英, 仏) トーゴ (仏) ソマリア (伊)
タンザニア (英)
西サモア (NZ) ルワンダ・ブルンジ (ベルギー)

ナウル (豪, NZ, 英)

パプアニューギニア (豪)



ラッテ・ストーン

マリアナ諸島で見られる石造遺跡で、9～17世紀に多くつくられている。通常は、石柱の上に碗形の石がのせられ、6～14本の石柱が、一定の間隔で2列にならんでいる。高さは2m前後、なかには5mをこえるものもある。初期のものは比較的小さい。その目的は不明だが、近年では家の土台か祭祀(さいし)用という説が有力。写真のラッテ・ストーンはグアム島のもの。Microsoft(R) Encarta(R) 2006. (C) 1993-2005 Microsoft Corporation. All rights reserved.

マリアナの旗　～あとがき～

マリアナの旗は、実に興味深い旗です。グアムの経済発展にあこがれ、自らもプエルトリコと同じ米領になろうとしたので、グアムの旗の地の色やプエルトリコの旗の一つ星と共通点があるといえはるかもしれません。しかし、マリアナの旗は、明らかにミクロネシアの旗がルーツです。プエルトリコの一つ星は「連邦に加わりたい一つ星」ですが、マリアナの一つ星は「分離独立の一つ星」と言えるでしょう。しかし、そのデザインからは、「ミクロネシア連邦の一員である」という主張も感じられます。この旗を「ミクロネシア連邦のマリアナ地区の旗だ」と言っても納得できるデザインになっています。実にうまいデザインを旗に盛り込んだものです。

「なんか忙しい」と感じる毎日。でも、よく考えたら、授業は週2時間で、そんなに忙しくないはず……。どうも「たのしくないことが少し」でも、たのしいこと(=授業)が少ないと、「忙しい」と感じるみたいです。嫌々やっている閉校記念誌の仕事は、まるで進まない。時間を忘れてこのレポートを書くときは実に対照的。「たのしさはひとを勤勉にさせる」のでしょうか。ということは・・・「つまらなさは、ひとを怠惰にする」・・・うーん、あたっているなあ。閉校間近の職場は、実に不名誉なことばかりで、同僚の人と「不登校になりそうだよ」と話していたりします。

そして、こういったレポートでは「読者の存在」が決定的です。ボクの好奇心だけでは、けっしてこんなレポートは書きません。だから「誰も読まないだろうなあ」と思える閉校記念誌の仕事は辛い。(それで、今もこんなことを書いています。笑)板倉聖宣先生だって「自分の好奇心だけでは研究を始めません」と言っていたものなあ……。サークルのみなさんに感謝して……。

でも核実験は「今月」も終わりませんでしたね……。

kasetsu.maruyama@nifty.com

Have I told you lately that I love you
Could I tell you once again somehow
Have I told with all my heart and soul how I
adore you
Well darlin' I'm telling you now

My world would end today if I should lose you
I'm no good without you, anyhow
This heart would break in two if you refuse me
Well darlin' I'm telling you now

Have I told you lately how I miss you
When the stars are shining in the sky
Have I told you why the nights are long
When you're not with me
Well darlin' I'm telling you now

My world would end today if I should lose you
I'm just no good without you, anyhow
This heart would break in two if you refuse me
My darlin', I'm telling you now...

“Have I told you lately that I love you”

文献

先月と同じですので，今月は省略します。